甲賀市企業人権啓発推進協議会広報

共に生きる

第 15 号
2012年6月

発行・編集
甲賀市企業人権啓発推進協議会
事務局
甲賀市役所産業経済部商工政策課内
TEL 0748-65-0710
http://www.mcv.zaq.ne.jp/koka-kijinkyou/

第8回(平成24年度) 甲賀市企業人権啓発推進協議会総会 盛会のうちに終了

あいさつに立つ岡野会長▶

去る5月16日(水)午後2時より、忍の里プララ(甲南)において、第8回総会が開催され、多数の会員企業のご参加をいただきました。

総会に先立ち、人権標語の優秀作品表彰があり、最優秀に選ばれた岸上秀一さん(大塚オーミ陶業㈱信楽工場)をはじめ12名の方々に表彰状と副賞が贈られました。

続いて会長あいさつ、来賓祝辞のあと議事に移り、次の各4議案において、原案どおり承認されました。

第1号議案「平成23年度事業報告について」
第2号議案「平成23年度収支決算書について」
第3号議案「平成24年度事業計画(案)について」
第4号議案「平成24年度収支予算(案)について」

今年度の計画においては、職場で従業員一人ひとりが高い意識と感覚を持ち続けるための事業の推進が表明されました。

議事終了後、午後3時より特別研修として「あした元気になあれ」と題して、みえ人権教育・啓発研究会代表の松村智広さんに講演していただきました。

松村さんは三重県の被差別部落に生まれました。「ぼく、どこまで帰るの?」「おにいちゃん、どこの人?」こうした『質問』におびえ、「頼むから、もう、うちに来ないでくれ」「おい、あいつには気をつけろ」という友だちの言葉に傷つきながらすごした少年期から青年期。人の世の冷たさを、いやというほど体験するなかで、しかし、松村さんは愛を知り、人は愛によって光を放ちはじめることを発見します。光を放ちはじめると優しくなる。つながり支えあうようになる。だから「差別すること」こそ恥ずかしいことなんだ。松村さんの明るく力強いポンポンとした口調に聴衆は思わず引き込まれました。

松村智広さんの講演

甲賀市企業人権啓発推進協議会

人権標語　入選作品発表

昨年12月に募集しました人権標語には、92作品の応募をいただき、その中から最優秀1点、優秀11点が決定いたしました。たくさんのご応募ありがとうございました。

人権標語表彰式

最優秀作品　語り合い　そこから生まれる　大きな絆
大塚オーミ陶業㈱　信楽工場／岸上　秀一

優　秀

＊その言葉　その行動　大切なのは気づくこと	甲賀農業協同組合／前野　佑喜
＊もしも私が言われたら　どう感じるのその言葉	特別養護老人ホーム　信楽荘／水落　拓也
＊真心こめた一言で　相手の心に　温もりを	甲賀協同ガス㈱／石川　知見
＊おもいやり　互いの配慮で　輝く職場	特別養護老人ホーム　せせらぎ苑／尾崎美登里
＊言う勇気「ごめんなさい」と「ありがとう」	障害者支援施設　るりこう園／谷口　誠
＊人の痛みのものさしは　人それぞれに違うもの	NEC SCHOTTコンポーネンツ㈱／樋口　淳一
＊今日も一日　感謝の気持ちと　おもいやり	近江鍛工㈱　信楽工場／内田　久枝
＊些細な言葉が　大きな傷に　少しの心が　大きな愛に	ピーエス・コンクリート㈱　滋賀工場／富田　辰也
＊差別の芽、断ち切る勇気と強い意志	NECライティング㈱　滋賀工場／赤塚　正
＊何気ない 意識と 言葉にある差別 かわろう かえよう 自分から	NECライティング㈱　滋賀工場／田中　武
＊できること　それはあなたの　意識から	甲賀バラス㈱／中嶋　大展

(敬称略)

平成24年度 事業計画

5月　総　会
特別研修
「あした天気になあれ」
講師／松村智広さん
(みえ人権教育・啓発研究会代表)
6月　広報誌第15号発行
7月　経営者トップ研修
会員企業向け啓発グッズ配布
職対協模擬面接会への協力
8月　人権フォーラム
就職困難者に対する模擬面接会
(～12月)
就職困難者パソコン教室
(～12月)
9月　人権パネル展
10月　フィールドワーク研修
12月　会員企業従業員対象研修
広報誌第16号発行
人権標語の募集

※ホームページの更新(充実)
関係団体との連携…随時

フィールドワーク研修　平成23年12月8日(木)

おおくぼまちづくり館にて

昨年12月8日(木)、フィールドワーク研修を実施しました。今回の研修地は奈良県橿原市の「おおくぼまちづくり館」で、32名のかたのご参加をいただきました。

橿原市は「古事記」「日本書紀」によって初代天皇とされる神武天皇の陵墓があり、時代の流れの中で幾度かの荒廃と再興を経たのち、明治から大正期にかけて、御陵と、隣接する橿原神宮(神武天皇をまつる神社)一帯の本格的な整備拡張事業が実施されました。

この整備事業の眼目をなすのが「洞(ほら)部落の全村移転」でした。洞村は、万葉集にも歌われた畝傍山(うねびやま)のふもとにある被差別部落で、御陵・神宮よりやや高台にあったことから、「穢れたもの」が「聖なるもの」を見おろすのは「誠におそれ多いことである」という理由で「全村移転」が行われました。移転に当たっては、村内の住居はすべて取り壊され、墓地は掘りかえされて一片の骨も残さぬよう取り出され、生きている人間ともども移転しました。

移転先をめぐっては、最終的には「おおくぼまちづくり館」のある現在の大久保地区となるのですが、それまでにいくつかの候補地となった場所で地元住民の厳しい反対運動が起こりなかなか決まらず、公的機関が調停にのり出してやっとのことで決定するにいたりました。さらには移転先の周辺地域から「被差別地区と間違えられると困るので自分たちとは一切関係ないこととすること」や「自分たちの居住区内には混じって住まわせない」などの13項目の「覚書」をまもるよう要求されました。

移転後、人々は長い時間をかけて地道に自分たちの新しいまちづくりを進め、現在のきれいなまちができましたが、今もなお道路ひとつ隔てた場所の不動産実勢価格とは大きな格差があり、参加者はあらためて問題の深刻さを感じ取りました。

会員企業従業員対象研修会　平成24年1月25日(水)

小林サヤ佳さんの講演

今年1月25日(水)、忍の里プララで会員企業従業員対象研修会を開催しました。

今回は、障がいを持つ人の積極的社会参加についての研修で、講師には、すとーりーてらーの小林サヤ佳さんをお招きして「語りと出会って　私らしく生きる」というテーマで、手回しオルゴールやスライド映像を使いながらの講演をしていただきました。

小林さんは生後間もないころの健康診断で、「いろいろなことを記憶する機能に障害がある」と医師から診断されました。それ以来、ともすればこもりがちな生活を送っていましたが、平成12年に飛躍の機会がめぐってきます。地元の図書館で「民話語り」を聞いた小林さんは今までにない感動を覚え、自分もあんなふうに人前で語り、人に感動をあたえたいと強く思うようになりました。お母さんに相談し、さまざまな人々と出会い、「語り部＝すとーりーてらー」になるための猛勉強をはじめます。

「ゆっくり　じっくり　ちゃくじつに」を座右の銘に練習に練習を重ね、平成13年3月に東京で開催された『第10回わたぼうし語り部コンクール』で入賞しデビューをはたしました。平成17年の『愛・地球博』では「まもりたいもの」という演題で45分間にわたるステージを演じ、満場の喝采を浴びました。

今回の研修でも、小林さんのさわやかな語り声と手回しオルゴールの優しい音色がハーモニーとなって会場に流れ、聴衆はしばらくの間、癒しと安らぎの時間を過ごしました。

7月は「企業内同和問題啓発強調月間」です